

# 波乱含みの世界経済をどう読むか

みずほ証券チーフマーケットエコノミスト 上野泰也

- \*トランプ支持率はこのところ上昇
- \*米国民が不満の声をあげない理由
- \*パウエル氏は利上げ打ち止めへ傾く
- \*米国債利回りが逆イールドになる恐れも
- \*出口戦略表明したECBの利上げは難航
- \*中国は対米貿易問題の対応に苦慮
- \*日銀は追加緩和回避に腐心
- \*米利上げ終了後に問われる日銀の対応力
- \*金利引き上げ論をどう考えるか
- \*安倍氏の本音は消費増税再延期か



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日はたいへん暑い日でございますが、皆さんにお集まりいただいて恐縮でございます。みずほ証券の上野さんにおいていただきました。今トランプ政権が派手に動いておりますので、米中の貿易戦争をはじめとしているいろいろなこととトランプが起きておりまして、大したことにはならないだろうと高をくくることができないような状況になってくるかもしれません。そういう意味で今日は経済の今後について上野さんからいつものように明快なお話をさせていただきます。それではよろしくお願いたします。（拍手）

トランプ支持率はこのところ上昇

上野 上野でございます。今日は非常に暑い状況の中、歩いてきまして汗びっしょりになりましたが、皆さんも暑い中わざわざおいでいただいているのに、またいつものように暗い厳しい話をさせていただくのは甚だ申しわけないと思いつながらこの場に立っております。

今冒頭のご挨拶の中にもございましたようにトランプ大統領の登場、それからイギリスのブレグジットの交渉プロセス、イタリアのポピュリスト政権、ドイツでも連立政権崩壊寸前になるなど、一言で今日の結論を申し上げればこれは時代の変わり目だと思えます。非常に長く続いてきたグローバル化——グローバルゼーション